

境港市校区審議会（第3回）議事録

日 時 平成28年7月8日（金）

場 所 境港市役所 第一会議室

出席者 委員 古都 好治、足立 ひと美、角 徹、山岡 睦美、肥後 功一、岡崎 茂
白井 靖二、坂井 敏明、徳永 哲郎、岩本 和貴、山根、真樹、竹藤 明美、
神波 雄一、三瀬 ゆかり

事務局 学校教育課長 影本 純、学校教育課長補佐 高濱 禎彦、
学校教育課長補佐 門脇 克美、

傍聴者 2人

1 開 会 午後4時

2 会長あいさつ

一番最初に、教育委員長よりいただいた諮問書では、2040年くらいの境港市の人口のイメージの話が出ていました。今生まれた子供が二十歳になって、そのころには境港市の子供は、小学生で1000人、中学生がその半分の500人になります。その頃に、今のままの学校数だと、1学年1学級となってしまいます。学級数を確保しながら学校教育を進めようと思ったら、今のうちから「学校をどのように組み立てて行ったらいいか」を考えなくてはなりません。そういう中で、今ちょうど教育改革が行われようとしています。この5月の末から6月にかけて、次期学習指導要領の骨格が次第に明らかになってきた。教える内容は変わらないが、「教育のやり方を変えなくてはならない」となってきました。これが、人数の事を直ちに問題としているかどうかは言えませんが、アクティブラーニングなどは、ある一定の集団があるという前提で教育論が進められています。そういう意味では、ある一定の子どもの数を確保しながら、地域の子どもたちに様々な力をつけていくということが要求されます。

その中で、事務局から試みとして小中を1つの学校の単位とみなして、「教育の規模を確保したらどうなるのか」とか、「義務教育学校」とか、地域の皆さんが参画する「コミュニティスクール」とか、様々な仕組みの提案をしていただきながら、今後の境港市の学校のイメージを皆さんにご検討していただきたい。

3 概要説明

（会長） 今日の第3回の審議の内容は、境港市立学校の現状とこれからの課題ということです。学校再編の方向性について資料に基づいて、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局） 前回の審議会の中で、小中一貫校のシミュレーションをいくつかのパターンで考えてみたいという提案を頂いていましたので、事務局としては3パターンの形を提案させていただきたいと思います。

小中一貫校または義務教育学校のシミュレーションとして、まず1つ目についてです。境港市全体として1中学校と3小学校の小中一貫校の施設分離型校舎のパター

ンです。現在の第二中学校の校舎を1つの中学校とし「境中学校（仮称）」として、第一中学校の所に境小学校と上道小学校を統合して新築「第一小学校（仮称）」、誠道小学校の所に中浜小学校・余子小学校・誠道小学校を統合して新築または増築で「第二小学校（仮称）」、第三中学校の所に外江小学校と渡小学校を統合して「第三小学校（仮称）」とするものです。人数をみますと、2025年はまだ人数は多いという形になり、中学校は学年7クラスとなります。2040年、2060年に向けて少なくなっていくますが、2060年になってもある程度の人数は確保できるだろうと考えられます。分離型ですので、中学校と小学校との直線距離で示していません。実際の移動を考えると、もう少し時間はかかるものと思います。メリットは、小学校3校、中学校1校となり、管理コストは下がるだろうと考えます。それから、40年50年先でも、ある一定の児童生徒数を確保できると思います。デメリットとしては、2025年あたりまでは、中学校の規模が大きくて現在の第二中学校の教室では足りません。ですので、校舎の増設を考えないといけないこととなります。現在の第二中学校は、各学年5学級までは対応できる状況です。2025年までは、児童生徒数が多いので交流や合同行事などが難しいという面があります。児童生徒の交流にはバスの必要性が出てきます。分離型の校舎であるために、教職員の相互乗り入れ授業は難しく、カリキュラム編成も難しいと思われまます。小中連携についても、4校では難しいのではないかと思いますので、推進コーディネーターを置くなど、人的な補助が必要なるだろうと思います。地域については、中学校の校区が市全体になるので、学校と地域コミュニティーのつながりがどうなるのか、コミュニティーとの在り方が課題になってくると思います。このように、一つの中学校と中学校から離れたところに3小学校があることになり、今の第一中学校のところと誠道小学校のところと第三中学校のところに小学校があるというのをイメージしていただけたらと思います。

続いてパターン2ですが、2つの小中一貫校または義務教育学校というものです。形としては、施設一体型校舎もしくは併設型校舎というものです。市の南北に2つの小中一貫校を作るというイメージを持っていただくものです。一つの一貫校は境小学校・外江小学校・上道小学校を第一中学校と一緒にして、新しい校舎を今の消防署あたりに新築し、「第一学園（仮称）」とする。もう一つの一貫校は余子小学校・中浜小学校・誠道小学校・渡小学校を第二中学校と一緒にして、第二中学校校舎の近くに小学校校舎を隣接して建築して、併設型（小学校と中学校が隣り合って立っている）の学校で「第二学園（仮称）」とするものです。境港市に中学校区が2つできるというものです。人数については、2025年で小学校24クラスで中学校12クラスとなります。そのあとになると、小学校18クラスで中学校は18クラスになり、2060年くらいになると小学校12クラスで学年2学級程度、中学校は6学級ですので学年2学級の規模になるという予想です。メリットは、2つの学校なので施設面のコストは下がります。40年・50年後の児童生徒数の確保もできるだろうと思います。一体型ですので、「4・3・2制」や、職員室を一つにして教職員の情報交換もできるであろうと考えます。デメリットとしては、2025年までは児童生徒数の規模が大きい校舎が必要です。それから、職員の乗り入れも小回

りが利きにくいであるとか、校区が広いのでスクールバスやバス通学が必要になるかもしれません。この形は、今の第三中学校の校区の外江小学校と渡小学校を分ける形になるので、新たな校区への編入という難しさがあるかもしれません。それから、市内が2つの校区になるので、地域コミュニティーのつながりを新しく作るのはどうだろうかということがあります。

パターン3は、3つの小中一貫校または義務教育学校というものです。場所は、基本的に今の第一中学校、第二中学校、第三中学校のところになります。境小学校と上道小学校を統合して、今の第一中学校に新築で一体型を建築する。余子小学校・中浜小学校・誠道小学校を統合して、今の第二中学校に隣接して小学校を建築する。これは、校舎併設型という形になります。渡小学校・外江小学校を統合して、第三中学校に新校舎を建築し、一体型とします。2060年くらいになると、人数が中学校区が120～130人くらい、小学校が220～230人あたりになって、少なくなってくると考えられます。メリットとしては、校舎一体型・併設型なので、9年間を見通した小中一貫校の効果が最も期待できると思います。職員室を一つにして、教職員の協働もできると思います。「4・3・2制」などの教育課程も編成しやすいです。小中学校の交流や行事も、人数的に実施しやすいです。学校管理的コストも現在より下がると思います。デメリットとしては、2040年あたりから、学年1学級になる可能性はあります。南側の地域では、スクールバスの送迎やバスの通学も考えなくてはならないかもしれません。

いろいろなパターンが考えられると思いますが、教育効果や実際の運用可能性から考えて、これらの3パターンを考えました。実際の位置関係は、地図に示していますので、それを見てイメージしていただきたいと思います。「Y」と示しているのが、現在の消防所ですので、パターン2の「第一学園」の位置が、このあたりになります。

2番の資料は、横浜市や東京都のいくつかの例を、成果と課題という視点で挙げさせてもらっています。成果では、中1ギャップの解消、学力の向上、生活意識の向上が挙げられています。課題は、乗り入れ授業の難しさ、調整の難しさ、校舎のキャパシティの問題、小6に最高学年としての意識が育ちにくいなどが、共通の課題として出ています。

京都市の小中一貫について、意義や流れについて挙げさせていただきました。

最後は、コミュニティースクール（学校運営協議会制度）について挙げさせてもらっています。現在、小中一貫校とコミュニティースクールを合わせて行うところが全国的に増えているようです。鳥取県では、南部町がコミュニティースクールを導入し、南部町教育長がコミュニティースクールのコーディネーター（推進員）として、文科省から指定されています。事務局からは以上です。

(会長) ご質問やわかりにくかったことはありませんか。鳥取県で小中一貫校や義務教育学校の指定を受けているところはありますか。

(事務局) 日南町の小中一貫校、鳥取市では湖南学園、福部未来学園。若桜町では、若桜学園です。

(会長) 小中一貫校と義務教育学校の違いは、校長先生が2人か1人かということですね。

(事務局) はい、そうです。

(会長) 義務教育学校では、小中両方も免許を持っていないけません。

(事務局) はい、将来的にです。

4 審議

(会長) 近距離的に、小中両方持っている教員を探すのは大変ということです。小の先生が中の免許を持っていることはあるのですが、中の先生で小の免許を持っている方は少ないです。小中を一つにすると、「6・3制」をたとえば「4・3・2制」にする意味もありますが、施設が別々だと教室の数に縛られるので、小は小、中は中というのが崩れにくいということになります。施設が一つになってしまえば、9年一貫と言えますが、建物が離れ離れになれば、小は小、中は中のままということになってしまいやすいです。建物の切れ目に支配されてしまうということになります。理想的には一貫だけども、本当は別々であるということになってしまいます。こういうイメージを持っていただいて、「どれかにしましょう」ということではなく、こういう提案について、「皆さんはどう考えるか」ということです。今日、「どれかに決めましょう」ということではなく、「これらのシミュレーションからどういう将来があるのか」を考えていただけたらと思います。いかがでしょうか。

(会員) 初めは誠道小学校が少なくなりどうするかということでしたが、もう少し先を見越して、次に来る段階を考えながらやっということでスタートしたわけです。こうやって見てみますと、3つのパターンも含めて、いろいろな小中一貫校のやり方があって、地域の事があって、一つの形にはできないと思います。しかし、方向的には、小中一貫校という方向に進まざるを得ないという感じがします。そういう方向で、細かく検討するのはどうだろうかと思えます。

(会長) 大事なことの側面の一つに、教育課程を子どもの状態にあった形にしていくことがあります。例えば、スポーツの事でも。9年間の育ちをする中で、一定の人数がいらないといけないと考えれば、小中一貫校という選択もあるのだろうということだと思います。一つの可能性です。

(会員) 先ほど会長が言われましたが、施設分離型は隔たりができる。できれば、小中が違う施設でも、渡り廊下ぐらいで繋がれば施設一体型の雰囲気は出ると思えます。それが前提だと思います。

(会長) 施設一体型の環境に近い方がいいのではないかとということだと思いますね。

(会員) 施設一体型のような施設が必要だと思います。また、パターン3で、第一中学校の校地に施設一体型を立てるのは、土地的に難しいのではないかとと思うのですが。近隣の土地が使えれば可能性はあるのですが、現状のままでは狭いと思えます。

(会長) パターン1だと、小学校は学年3～2学級です。

(事務局) 中学校が21クラスということになると、今の西部地区の大規模校並みです。規模が大きくなると、生徒指導上の事や全体的な運営に課題が出てくると考えられます。

(会長) 一貫といっても、小学校が離れたところにあると、一貫の話し合いが持てないことになる。制度的一貫でも、小は小、中は中という感じになってしまうと考えられます。

(会員) 一貫教育をするのに、小学校と中学校の間という時間的なロス、教員の移動などがあると、中学校は中学校の教員が集まってやってしまうことになって、運用的には難しいのではないかと思います。それから、パターン2・パターン3は、市内が2ないし3つの小中一貫校または義務教育学校になるので、市内は100%そのような形になるので、小中の免許を持っていなければならないなどの事を考えると、教員をうまく配置できるのかということが出てくるのではないのでしょうか。市内だけでは解決できないことが、起きてくると思います。そのあたりを十分に県に要望したり、見通しを持ったりしないと、「作った方がいいがソフトがそろわない」ということになりはしないかと心配します。

(会長) パターン2は美しくはあるけど、少し規模が大きいかもしれないですね。

(事務局) 1回目の資料に出しましたが、小中一貫校で多いのは、中学校1学年が2〜3クラス程度で、1〜3年がある程度の規模があるというものです。小中一貫校の中で、中学校の学年が4〜5クラスというのは、全国的に多くない状況です。

(会長) 教育にちょうどいい規模という話がありますね。鳥取県でこういう小中一貫校が出来ていくと、中学校の先生に小学校の免許を取得してもらうことも必要になります。

(会員) パターン3で、第一中学校の校地に建てられるものなののでしょうか。

(事務局) 事務局内で話が出ていたのは、「もし建てるなら、第一中学校の校地は広いので、津波等の避難も想定して4階建てにしてみてもどうだろうか」というものです。もしかしたら、グラウンドの向こう側に校舎を建てておいてから、古い校舎を更地にしていくという方法が取れるかもしれないという考えです。しかし、可能かどうかは、まだ十分に検討はしていません。

(会員) グラウンド的には、小中一貫校には狭い、と考えていますか。

(事務局) はい、そうです。あとは、建設中は一時的に小学校の校舎を借りて、中学校はプレハブなどで対応して、建ててから入るという方法もあるという話が出ていました。

(会長) 実際にいずれかの案でやるとなると、「教育環境として良くなったね」という感じにならないと納得してもらえないでしょう。広さ・狭さ・ソフト面・ハード面や、安全性の面などです。

(会員) 今日の資料にある広島県府中市の学校ですが、私が日南町教育委員会にいて、平成20年に統合する前の年にここを訪問させていただきました。一体型や併設型、分離型の3通りの小中一貫教育を、この辺では一番早くに府中市がやっていました。教育委員さんなどと視察に行くと、その中で感じたのは、一貫校にするのが一番ベストだろうということです。「小中一貫校」となっているのは、カリキュラムでしっかりとつながっている一貫であって、併設であったり分離であったりすると、非常に難しいのではないかと思います。その時、府中市の教育長さんからも話を聞かせてもらいましたが、分離にすると教員の負担増が大きくて、いい連携ができないし、乗り入れも遠くまで行かないといけない。これらの事を考えると、小中一貫をするのであれば、これらのパターンの中では、パターン3がいいのではないかと思います。パターン3だと、今の中学校区を大切にしながら、学校と地域との連携も

そのまま残っていくのかなと思います。

視察に行ったときには、3つの型があったのですが、今見るとその時より一体型が1つ増えています。というのは、分離型だと苦しいから一体型にされたのではないかなと思います。一度に3つを一体型にするのは、ものすごく予算もかかると考えると、徐々に一体型にしていくのがベストかなと思います。そういう実際にやっているところを参考にするのも良いと思います。

(事務局) 府中市の資料を載せたのは、来週の13日に私と教育長が視察に行くことになっているということからです。もし、一緒に行かれるということがありましたら、午前中の視察ですので、声を掛けていただけたらと思います。ホームページを見てみますと、校舎の見取り図などが見て取れますが、今日の資料にも載せていますので、ハード面として参考にさせていただけたらと思います。

(会長) そのほかいかがでしょうか。

(会員) 今までの皆さんの意見と同じなのですが、資料のパターン1だと、小学校の統合と中学校の統合という、小学校は小学校で、中学校は三つを一つにするというイメージがあります。そうすると、中学校が一つということで一貫というのは大変だろうという感想はあります。パターン2とパターン3だったら、小中一貫校のイメージが想像できるのですが、2025年の学級数を見ると、境港市で方向性が決まるとんとん拍子に進んでも、スタートするのは2025年くらいと見越してクラス数を出しているのが疑問です。もしもできるとして早くても2025年くらいという考えで出ているのでしょうか。

(事務局) 2025年・2040年というのは、統計上としてこのポイントで出ているので、人数の集計がしやすいという点で挙げています。年数的に行くと、9年後・25年後・45年後ということになるのですが、あくまでも目安ということにとらえていただきたいと思います。時期を意識して、この年数を出しているというわけではありません。

(会長) ロードマップということではないということですね。

(会員) パターン1は考えていないのですが、パターン2かパターン3のあたりで考えると、パターン3が最も地域に密着した形になっていく一体型だと思います。しかし、2060年の児童生徒数の推移を見たときに、必ずしもこうなるわけではないですが、第3学園は120名となる。6クラスとなっていますが、標準法でいきますと、3~4クラスとなり、若干少ないと思います。3つの一体型というよりは、パターン2の方が、数的には適正な学校になっていくのではないかなと思います。ただ、校区が広いので、外江の方から第一学園に行くというのは、かなり厳しいとも思いますが、数的にはパターン2かなとも思います。

(会長) このとおり、児童生徒数が推移するかどうかわからないところがありますが、2060年となると学級という考え方も少しずつ変わってくるかもしれません。進度別のクラス編成みたいな考え方が進むのではないかと考えます。国としてはそちらの方を考えている感じがあります。つまり、同じ年度に生まれた子どもたちが、ずっと同じ組で行くのかということ、おそらく考え直さないといけない瞬間がくると、国の方は分かっています。ということは、このことが義務教育の間にも少し動くか

もしれません。そこまでは、今は考えなくてもよいのですけども、少なくとも、2040年くらいまでに向けて進めていかなくてはならないと思います。

(会員) パターン2はとても複雑な心境になりました。以前は、第一中学校と第二中学校の2つの中学校で、外江は第二中学校へ通っていたみたいです。3つ目の中学校が出来たときに、外江小学校は新しい中学校になって、学校同士の連携や保護者や連携も少しずつできて行って、PTAの合同研修なども行うようになって、地域の運動会などにも中学生がボランティアで参加するのが増えてきていると聞いています。外江と渡の第三中学校区の地域の一体感が大きくなっていていっているところで、パターン2はどうかと思います。パターン3でいくと、その気持ちも受け止めてもらえると思います。確かに、2060年の第三学園の120人の人数はどのくらいの数かとも思いますが、個人的にはパターン3に目がいきってしまうと思います。

(会長) 先ほどのご意見にあったように、先々の人口を見た時にパターン3で持つのかどうかということであって、そんなにすれ違うご意見ではないと思います。こういった、心情的なお話も大事だと思います。

(会員) パターン3が一番しっくりきます。夕日ヶ丘の土地が、好評で抽選で漏れる方がいるという話を聞いたことがあるのですが、そうなってくると渡の人口も少しずつ増えてくると思います。また、一体型になったとして、誠道小学校がそれまで、どういう形で行くのかということを考えてしまいます。

(会長) すごく大事なことです、誠道小学校の事を忘れてはいるわけではないのです。全体的な方向の話をしているところですが、諮問の2番目として誠道小学校をどうしていくのかということがありますので、パターン2・パターン3の中で誠道小学校についてもご意見を出していただけたらと思います。コストの問題としてもあるので、市の方としての意見もあると思うのですが。

(事務局) パターン2・パターン3の形で、新しく校舎を建てると考えたときに、全体的に先を維持していくことを考えれば、それほど無茶な計画ではないだろうと事務局では話をしています。小中一貫校・義務教育学校の一体型・併設型で考えても、国の補助も2分の1というのもありますし、そういうのも考えて全体の数を、先々2ないし3にしていくということについて、それほど莫大なコストがかかるというわけではないと思います。むしろ、いい形での管理コストになるという話も出ています。

(会員) 将来的に一貫校や義務教育学校になっていくと考えたときに、「4・3・2制」にするのかどうするのかわかりませんが、教科担任をたくさん入れながら教育課程を進めるような中身になっていくのではないかと想像します。その際には、今の教員定数のやり方だと、県から来る配当数では足りないのではないかと思います。一貫校にしたときには、市費でも教員の定数を増やすことも合わせて予算化を考えていただくと、スムーズにいくのではないかと思います。

(会長) 教員定数の問題については、文部科学省も見直しを図っているようです。財務省とのやり取りの本丸はそこですので、今回突っ込んでやりたいということを行いました。そうなってくると、こういった独自の学校の作り方、例えばパターン3などは、ほしい人数を市が教員定員を確保しながらいい教育になるようにしていく

というところまで進められるのかということも考えていかななくてはならないということだと思います。市の方では、どう考えておられるのでしょうか。

(事務局) 市の方は、鳥取県の500万円拠出という方法などでやっていくというのもあるだろうと考えています。予算措置も考えながら、配当をしていくということは考えなければならないと思っています。指導補助員等も今は各校に2名入れていますけども、そのような確保も大事だと考えております。

(会長) 1学級35人と決められると、それに対して教員が1人しかつかないことになるので、1人でも減ると学級数が減ることになります。学級数を維持しながらやっというところとすると足りない分を市が補っていくということになりますが、そういうこともやっていく必要があると思います。

(会員) 税収が少なくなりますよね。今の現状が維持できるかということも考えると、非常に難しい話になるのではないのでしょうか。

(会長) 地方創生とっていますが、一方で小規模校をどうにかして大きな学校にしてくださいという話もあります。小規模校を残そうと思ったら、教員の定数をどうやって配置していくかということが、どうしても必要になってきます。そのことのできる財力がある各自治体とない自治体があるということはどう考えるかは、全国的な問題だと思います。

(副会長) 私もパターン3が、これまでの中学校区の流れが出来ているので、学校と地域のつながりも含めて、スムーズにいくと感じます。ただ、現在第二中学校区は余子小校区・中浜小校区・誠道小校区という3つあるわけですが、これが1つにあるわけですが、校区をフリーにするという発想が難しいと思っています。「2025年までは誠道小学校はどうあるのか」という話もありましたが、校区が1つになるのだということを見据えて今の校区をどう考えたらいいのかというのが、非常に難しいと思います。

(会員) パターン2にしてもパターン3にしても、枠組みはどういう形になっても、それぞれのメリット・デメリットがあるわけですから、それでやっていけばいいと思います。ただ、他でやっている市町村の財力がどれだけなのかは把握できていないのですが、境港市の財力で、他のやっていることが本当に取り入れることができるのかと思います。箱物を作る財力もそうですが、箱を作ったのはいいけども中身が不十分だということになると、少ない教員の数で今まで以上に余裕のない中でやらないといけないということになります。教育的効果という意味で果たしてどうなのかとすごく心配します。どの枠がよりベターなのかも大事な議論だと思いますが、教員の配置を市費で雇うほどの教員が、本当にいるのかということも考えないといけないと思います。中身の面が、「少し置いといて」という話になっていて、少し違うのではないかなという違和感を覚えます。

(会長) 非常に重要な話だと思います。ある意味で人数・地域だけの足し算で考えられていっているが、教育の中身、教育課程について議論されていないのではないかと思います。教育のソフトの面を考えずに、施策を進めてしまうと少し危ないのではないかと思います。指摘だと思います。おっしゃるとおりだと思います。本当は、ここまでのところで枠組みの話、パターンの話は一旦置いておいて、その中で

教育課程の話をししないと、いけない面もあるのかと思います。先程の府中市の話も「人数がこうなりましたから、こうしました」という話ではなくて、教育が変わるといふ中身が本当は何なのかということが大事な点だと思います。「枠組みを変えただけで中1ギャップがなくなるか」といわれると、ちょっとどうなのだろうかという面もありますし、それによって「学力が上がると書いてあるが本当にそれだけで上がるのか」ということも思います。やはり、先生方の努力や工夫があるはずですし、「そのことがしやすい仕組みである」ということが大事だということだと思います。

その辺のソフトの面の部分はどうでしょうか。

(事務局) 今はまだ、ソフトの面について決めていく指針というのはこれからゆっくりとやっていくところと思っています。「これからの境港市の教育のスタイルとして、目指していく夢であり理想」をこれからの子どもの姿と照らし合わせながら、一貫教育というものを見ていくというのが、今の話の流れではないかと思っています。ですので、詳しいことについてはなかなか挙げられないかもしれませんが、これから先の教育の在り方というところで審議していただけたらと思っています。それから、先ほどから誠道小学校の話が出ていますが、今一貫校という大きな流れ、例えばパターン2・パターン3という形がある中で、実際に一貫教育に移行していくのが何年先になるかわかりません。その中で、誠道小学校をどのようにしていくのかという話も、そろそろ方向性を出していかなくてはならないのではないかと考えています。そのことについても、審議をお願いしたいと思っています。

(会長) 諮問を受けたのは、何年度かに「一貫教育を始めた方がいいかをどうか」という話ではなくて、将来的な展望の方向性について事務局からいただいていることだと思います。中身の研究を始めたときに、実質が伴うかどうかという財力の話も大事であると思います。

後半出てきた誠道小学校の話は、この審議会ですべて具体的にどこまで進めたらいいのかがあります。統合するのであれば、そこまであっていいのではないかとすることもできなくはないです。そのあたりを、どう考えるかです。統合するまでに、「先にした方がいいのではないか」という議論をするのかしないのか。その辺は、いろんな条件があると思います。

(副会長) 「統合するのだから、その時までにはいいじゃないか」という議論もあるでしょうが、今現在誠道小学校において、保護者の方のアンケートにもありますが、小規模校ならではの歪みも出てきているのではないかと思います。参観して、その点も少し感じました。だから、「ゆくゆくは」ではなくて、今・来年の誠道小学校の子どもたちをどうするか。「少しでもいい教育環境を提供するためにどうすべきか」ということを、検討したいと思っています。

(会長) 全体の小中一貫校もしくは義務教育学校に当たってのロードマップをどう作るかということと、誠道小学校についてどう考えるかというロードマップは、ある意味では同じ工程の中にあります。しかし、すこしテンポや位置が違ってくるかもしれないということかもしれません。

前半の小中一貫校または義務教育学校のロードマップも一定の年限があるのでは

ないかと思っています。というのは、国の後押しがいつまであるのかということです。10年後も20年後も国が後押しをするという話ではないと考えられます。一定程度、推し進める波に乗っていかないと、補助金的なことは難しいのではないかと思います。その辺は、どうでしょうか。

(事務局) 20年後30年後のところというのは難しいでしょうから、近い所で「10年後というところではどうあったらいいのか」と考えます。または、例えば「20年後までにはパターン3が成り立っている」とかです。「40年後にできていればいい」という話ではなくて、ある程度の近い先のイメージの持ち方が大事なのではないかと考えています。今、40年後の夢を語っていても、本当にそこに向かっていけるかわかりません。あまり先の話を考えていくと、今、議論しているところからずれていってしまいますかもしれません。そんなに遠い所ではなくて、10年15年20年という時間的な捉えが必要ではないかと思っています。

(会長) 国の補助金が一番恐ろしくて、こういう話をしていて、それが外れるということは結構大変なことになります。

(事務局) ですので、研究しながら、少し早めに進めていく必要性も出てくるかもしれません。

(会長) 私は、10年は危ないと思っています。「10年というスパンで設計すると少し長いかも」と個人的には思います。それでも、様々な皆さんの地域の感情もあるでしょうから、「2・3年で駆け足でまとめろ」という乱暴なことは言えないと思います。あまり悠長に構えるのも難しいかもしれません。本当にやるのであれば、そのメリットをしっかりご理解いただいて、少しピッチを上げて進めないといけない状況が、外的に起こりうると思います。

誠道小学校のことは、ゆくゆく小中一貫校というのを5年・10年・15年で計画していこうというロードマップと、ちょっと違うスピード・条件で進めなくてはならないということだと思うのですが、皆さんはどうお考えでしょうか。少なくとも、検討してくれということだと思いますので、皆さんからご意見を伺いたいと思います。

(会員) 質問と合わせてですが、例えばパターン3のような形で行くとしたときに、第一学園・第二学園・第三学園を同時にスタートさせようと考えておられるのですか。また、例えば、第一学園だけからスタートさせようと考えておられるのか、どうですか。

(事務局) それも、あると思います。取り掛かれるところから、ちょっと早くに始めるということもありだと考えます。3つを一度にやっていく財力は厳しいと思いますので、財政の面からも5年計画などの中で進めていくということもあり得ると思います。そうすると、「まず、早く始めるところはどこか」ということになると思います。例えば、「第二中校区を早く始める」などです。また、「第一中学校の校舎が古いということがあるので、こちらの校区から始めていく」という考えもあると思います。これは、検討していく必要があると思います。これらの事は、答申後に多少違う条件を踏まえて、考えていかななくてはならないと思います。

(会長) 次回ぐらいのところまでパターンをどうするかということを考えていきたいと思

ます。今日のところは、パターン3のご意見が多かったと思いますが、そのことが見えてきた段階で、例えばパターン3であるなら、どういう順番がいいかという話になってくると思います。

(会員) それに関連してですが、以前に日南町が統合するときに、「学校間が統合するのは、最低3年必要だ」と考えました。たとえば、パターン3の形なら、「誠道小学校を早く何とかしてあげたい」と考えて、第二学園というのを3年後にスタートさせるとなると、それまでに余子小学校や中浜小学校との連携や合同の授業などが必要になると思います。そうなったときに、500万円拠出という話が出たのですが、一貫校が明らかになれば誠道小学校の複式を解消すればいいことであります。「市の単独の補助で3年後を目指す」というのも1つの方法かなと思います。この前も誠道小学校の取組が新聞に出ていましたが、特色ある取り組みをされているのに、「3年後にはもう無くなるよ」というよりも、他校区も一緒になっての合併だと皆も安心しできるのかなと考えます。日南町も、名前は集合学習と称して月1回なり月2回なり、同学年が一緒になって学習するという場を設けながら、少しずつ進めました。これから、同じ学級になるわけですから。そういう準備を進めないといけないのかなと思います。

(会長) 現在の同一中学校区内の交流や合同学習のようなものはないのでしょうか。

(事務局) あります。

(会長) 今、第二中学校区の話がありましたが、どれくらいあるのでしょうか。

(会員) 小学校同士は、余子小学校や中浜小学校と誠道小学校がやっていると思います。

(会員) はい。5年生が音楽などで誠道小学校がくるということをやっています。

(会員) 昨年は、第二中学校に誠道小学校から来てもらって、音楽の授業などをやりました。たまたま、誠道小学校の水道が出なくなったときがあって、その時に全員に来てもらってやったことがありました。気持ち的には準備はできていると思うのですが、ただ、現在の誠道小学校は職員数が少なくて手一杯で、引率して中学校まで連れてくるというのはなかなか難儀な状態になっています。だから、昨年に引き続いて今年もやりたいと思っても、誠道小学校の先生の事を考えると、無理強いできないと思っています。そこまで、誠道小学校は追い込まれていると言ってもいいのかもしれない。

(会長) 小規模校は小規模校の大変さがありますので、活動が増える分、労力が増えることになります。

今日の議題は、一応、こうところではあるのですが。

(事務局) そうですね。今、大体小中一貫校という方向で、パターン3が一番、地域性や学校教育を含めてじっくりくろだろろうという意見は大事にしていきたいと思います。あとは、何年後かに進んでいく可能性のある小中一貫校のロードマップの中に、どうやって誠道小学校を入れていくのがいいのかというのが、最後の諮問のまとめになっていくのではないかと思います。これが、第4回の議論になっていくのかなと思います。今、整理しますと、第二学園ができるときに一緒になっていくのか。あるいは、それまでに一貫の形になっていくのか。誠道小学校を残していくには、今の校区の問題を変えていくのか、通学の区域です。いろんなことが、考えられると

思います。この辺のところを、いろいろと話し合っていたきたいと考えています。

(会長) 次回、具体的なロードマップ中で考えていけばよいと思いますが、議論の出発点として、「このままの状態で誠道小学校を残す方がいいのかどうか」という議論をするかどうか。この前の議論では、「このままの状態では大変だ」という議論はいくつか聞きました。「実際に見てみて、大変だ」という意見も聞きました。小中一貫校というロードマップの中で、このまま残して行って「がんばれ」という話があるかどうかということが、大事な部分です。現状のままで10年持ちこたえるという話になると、10年間、教育条件が変わらないということになります。その間、そこに通う子供たちは、その教育条件の中で学ぶほかないです。そのことに課題はないのかどうか考えていただきたい。少し、復習するような議論になると思います。前回までの資料の中や、様子を見たとの話もありました。そこも少し振り返りながら、どのタイミングで、どういう統合をしていくかということについては、いつか話し合わないといけないと思います。「現状のまま小中一貫校が始まるまでは持ちこたえるのだ」というラインがあるのかないのかは、少し整理する必要があります。いつか審議会の中で、整理しなくてはならない問題だと思います。

今日の議論としては、以上でよいのではないかと思います。形の議論だけではなくて、そうすることによって教育課程などの中身がどれほどよくなるのかというイメージは、市民の皆様の説明していく必要があるので、その辺の準備の事も含めて教育の内容について、ご研究いただきたいという意見が出たということだと思います。

(副会長) 誠道小学校の保護者からは校区を広げてほしいという意見がありましたが、それは本当に可能なのかどうか。校区が広がって誠道小学校の児童数がもう少し増えて、複式も解消されて、小規模校ならではの良さが発揮できるのであれば、小中一貫校ができるまでは、それぞれ別の小学校でそれぞれの良さを発揮してほしいと思います。校区が本当に変えられるのかどうか。

(会長) 校区を動かすということは、現状の小学校の定数を少しずつ移動させれということです。どこから入れるということです。具体的に可能なのか、良いのかということですね。

(事務局) 中野町は今、上道小学校と余子小学校に分かれています。そのラインを定めたのが最後の校区の話し合いだと記録に残っています。校区を変えていくというのは、可能であると言えば可能であります。そこには、話し合いだけでは解決しない、もともとの地域の感情であるとか、昔からの捉え方であるとかが入ってくるので、その辺を充分考えないと、机上で「できる、できない」では難しいと思います。そこは、慎重に話し合わないといけないと思います。

(会員) 今、中野町の問題がありましたが、自治会としては非常に大きな問題として残っています。校区的に上道小学校が少なかったということで、中野町の一部を上道小学校に移行したわけです。そうすると、区割りの問題で、保護者間のことや自治会運営のことで難しいことが出てきました。ですから、校区編成については触れることができるかもしれませんが、いろんなことを考えておかないと、次の事を考えておかないと、かなり大変だと思います。

(会員) 上道小校区の中野町民ですが、おそらく私の住んでいる地域のところに住宅地が

どんどんできてきて、校区の編成・区割りの話が出てきたのだろうと感じています。違う地から来てみて、「同じ町なのに校区が違うの」という思いがした。自治会の活動では、余子エリアの中野町民、上道エリアの中野町民が一緒になって活動しています。町民運動会も秋にあるのですが、その時は中野町が校区の垣根を越えて一緒になりますが、学校活動になると別々になってしまいます。そういうことを考えると、一貫校へ移行していく間で、校区を変えるということになると、その地域の方たちの心情というのはどうだろうかと思えます。移行という中でも、かなりの労力を使うことになると思えます。そこにさらに、もうワンクッションということになって、校区の編成も行いながらとなると、これはかなり大変な仕事になってしまうのではないかなと思えます。

(会長) 大きなロードマップは必要で、ゆくゆくは小中が一体化したものを3つ作って、地域で一貫教育を進めていこうとする段階の中で捉えていただかないといけないと思えます。それまでの間に、「こっちをこっちに変えて」みたいにややこしくしても、あまり意味はないだろうと思えます。地域の方の思いはご年配の方ほど厳しいということがあります。私も、中間山地のいろんな統廃合に関わっているのですが、この前は、ある地域の小さな小規模校で「田植えをやるので幼稚園の子どもを呼んでくれ」ということになりました。人数が少ないということで、隣の地域の幼稚園からも呼んだら、地域の方から「地域の子でない子が何でいるのか」と公民館から苦情が来て大変なことになったという話です。それは、聞くに悲しい話でして、子どもたちがこれだけ減っているというときに、両方から手を引っ張るような話はやめて、今後10年20年たって、この地域が活性化するような教育ソースをどのように作るかという目的に向かって応援していただけることを目指すしかないと思えます。現実離れしているかもしれませんが、そういう所で話を進めていければと思えます。ご協力をお願いしたいと思えます。

他に、いかがでしょうか。そうしますと、次回は少し厳しい話題になるかもしれませんが、事務局の方には、また資料等を用意していただけたらと思えます。今日の議論を受けて次の議論を進めればと思えます。

それでは、今日はこの辺で終了いたしたいと思えます。ご協力いただき、ありがとうございました。

5 閉 会 午後5時30分